

フロンティア研究センター講演会のご案内

講師：鍋島陽一 先生

公益財団法人 先端医療振興財団
先端医療センター長



職歴：1972年 新潟大学医学部卒業
1976年 新潟大学大学院医学研究科修了、医学部助手（生化学）
1978年 新潟大学医学部講師（生化学）
1987年 財団法人癌研究会癌研究所主任研究員
1987年 厚生省国立・精神神経センター 神経研究所遺伝子工学研究部長
1997年 大阪大学細胞生体工学センター 教授
1998年 京都大学大学院医学研究科 教授
2005年 京都大学附属ゲノム医学センター長
2007年 京都大学生命科学系キャリアパス形成ユニット長
2010年 京都大学名誉教授
2010年 公益財団法人 先端医療振興財団 先端医療センター長

演題：Klothoが紡いだ生命の糸を解きほぐす

日時：平成27年12月11日（金）18:00～19:30

場所：徳島大学藤井節郎記念医科学センター 藤井節郎記念ホール

内容：学生時代に50、60年代の生命科学の躍動感を感じ取り、生物界の統一性の上に作り出された生物界の多様性の解明に心が揺さぶられた。卒業後、70年代の分子生物学の勃興に時代の大きな変化を直感し、分子生物学的手法を使って生物の多様性の研究をやろうと決意した。ミオシン遺伝子の構造解析、筋細胞分化の分子機構、幹細胞の非対称分裂、ハエ、マウス神経系の形成機構、精子幹細胞の解析、そして多彩なヒト老化様変異表現型を示すKlotho変異マウスの解析へと進んできた。集まってきた仲間達との40有余年の道のりである。 α -klotho はヒトの老化疾患に類似の変異表現型を示す突然変異マウスの原因遺伝子であり、電解質恒常性を制御している。 α -Klotho の結晶構造解析、分子動力的解析により、 α -Klotho はグルクロン酸糖鎖/HNK-1 を認識、結合する新規レクチンであることを発見、更に蛋白間相互作用、シグナル伝達における糖鎖の新たな機能を提唱した。Klotho 研究は混迷の中に漸く一筋の光を見いだしたようである。

主催：徳島大学大学院S T S研究部ライフシステム部門

共催：徳島大学大学院S T S研究部フロンティア研究センター

*本講演会は、大学院医科学教育部、栄養生命科学教育部、口腔科学教育部の大学院特別講義ならびに、クラスターコアセミナー（脳科学クラスター）を兼ねています。

連絡先：宇都義浩 (uto.yoshihiro@tokushima-u.ac.jp, 内 4906)